

2018 年度日本天文学会天文教育普及賞

【受賞者名】 黒田武彦（くろだたけひこ）氏

【活動名】 国内外における長期的かつ広範な天文教育普及活動に対して

黒田武彦氏は、四半世紀にわたり、天文教育普及活動を幅広く繰り広げてこられた。西はりま天文台の開設（1990年；初代台長）や完成当時は世界最大の公開用望遠鏡であった「なゆた望遠鏡」の建設（2004年）はもちろんのこと、公開天文台の全国的組織としての「日本公開天文台協会」の設立（2005年；初代会長）への貢献、サイエンスツアー「ひょうごは大きな博物館」（1998年～2008年）や「サイエンスカフェはりま」（2008年～）など地域における種々の普及啓発活動の実施、音楽コンサートや詩の朗読など文化芸術活動と天文普及活動のコラボレーションなど、その活動は広範かつ多岐にわたり、はりま地域だけでなく、全国の多くの同様の施設でのロールモデルを打ち立ててきた。

さらに黒田氏の活動は国内に留まらず、南米ペルーでの天文教育普及活動に対しても多大な支援を行ってきた。具体的には、ペルー政府の依頼でペルー国立教育天文台の開設に尽力していた故石塚睦氏を支援するため、「ペルーへ天体望遠鏡を贈る会」を結成し（1999年）、天文関係者以外にも故小松左京氏ら広く著名人の賛同も得て、ペルーへ60cm望遠鏡を寄贈する事業を実現した（2014年）。このような活動を手がけ、実を結ばせるには黒田氏が中心になって構築された幅広い人的ネットワークが重要な役割を果たしたが、そのネットワークが現在も天文学の普及教育に大きく貢献している。

上記の多くの活動は、西はりま天文台の職員さらに後には兵庫県立大学の教員の職分をはるかに超える教育普及活動である。以上の理由から、黒田武彦氏に2018年度日本天文学会天文教育普及賞を授与する。